

市制施行50周年記念事業



「雨を活かすまちづくり 50年の継承」の記録



8市市長サミット



シンポジウム



雨と仲よし・アイデアコンペ

小金井市

はじめに



小金井市は、国分寺崖線、野川、玉川上水、小金井公園、武蔵野公園等水と緑に恵まれた自然豊かな市民の皆様の環境への思いが強いところです。

平成20年10月1日に市制施行50周年を迎えることができましたが、この50年間の前期は、高度経済成長期の都市化で市の発展を支える基盤整備の時期だったと思います。道路及び下水道の整備が行われたのもこの時期です。しかし、残念なことに都市化は緑地、農地等を減少させ雨水が浸透しない面積を増やし、地下水位の低下、湧水量の減少ばかりではなく、下水道に流れ込んだ雨があふれる内水（うちみず）被害をももたらしました。

中期は、環境に関心が高い市民が、環境の再生に向け活発に活動をした時期だと思っています。市民、大学、行政の協働が早くも動き出し、「小金井市式雨水浸透ます」の誕生と同時に「雨水浸透施設の技術指導基準」を施行し、排水設備指定工事店の方々との協働事業として雨水の地下への涵養に取り組み現在も継続しています。その取り組みが評価され日本水大賞グランプリ等の賞をいただき注目された時期でもあります。

後期は、環境体系の整備やJRの高架化に伴う二つの駅の面整備の時期だったと思います。環境基本条例による環境市民会議の発足や、地下水及び湧水を保全する条例による市民の地下水位監視、市民参加条例やまちづくり条例による市民自らのまちづくりへの参加等市民の市政への参加もますます活発になってきています。環境問題をはじめ自らの手で自分たちのまちを良くしていく取り組みをしてくださる市民の方々の活動に深く感謝しております。

そして今後の50年間をどうするのか問題です。私は、「黄金井」という特性を生かしつつこの豊かな自然を次世代にどう継承していくかを考えていかなければならないと思います。

キーワードは「雨水」です。この先50年「雨をかりる・かえす・活かす」まちづくりを市民・事業者・学識者・行政の協働で実施し、子孫に継承することによって「安全で潤いのある故郷」を次世代に残そうという思いを含め、市制施行50周年の記念として三つの事業を実施しました。

一つ目は、雨水は速やかに流し去るものではなく、資源という考えに改め、「8市市長サミット」を開催しサミット宣言を行い、署名をいたしました。一つのテーマに向かって行政の枠を越え、行政同士の横の連携を50年間継承していきます。

近隣7市の首長さんがこの趣旨をご理解いただき、ご多忙にもかかわらず全員出席していただいたことは誠に有意義であり、深く感謝いたします。また、来賓としてご出席くださった方々の温かいお言葉は、私たちに勇気と希望を与えてくれました。本当にありがとうございます。

二つ目は、宣言を受け具体的に小金井市ではどうするかを模索する「シンポジウム」です。市民、学識者、事業者、農業者、行政とゲストにNPO法人雨水市民の会理事長をお招きし、実践豊富な方々の内容の濃いご意見を今後の行政に活かしていきたいと考えております。

三つ目は、「雨と仲よし・アイデアコンペ」です。一般部門の応募が少なかったのですが、すぐにでも製作、実現できる内容でした。地域ぐるみで雨を活かしたまちづくりができたなら、きっと歩いていても楽しいと想像を膨らますことができました。小学生部門は、持って楽しい傘のデザインです。市内の全小学校のご協力もあり、予想を大幅に上回る応募でした。傘の製造業者に見ていただきたい作品がたくさんあり、子どもの頃こんな傘があったら雨の日でも楽しく通学できたと、全ての展示作品を見て思いました。

平成20年11月15日から「雨を活かすまちづくり50年の継承」がスタートいたしました。ゆっくりと雨を楽しみ、雨水をまちに活かす工夫を皆様と共に考え、協働で実施していきましょう。

平成21年2月

小金井市長

稲葉孝彦

市制施行50周年記念事業

「雨を活かすまちづくり50年の継承」の記録

目次

8市市長サミット	1
シンポジウム	21
アイデアコンペ	51
資料	59